

聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2014.4.28
No. 55



リバイバルへの祈り

——JHA三〇周年記念大会への期待

インマヌエル中目黒教会 牧師 竿代 照夫

「神よ。私たちをもとに返し、御顔を照り輝かせてください。そうすれば、私たちは救われます。」

(詩篇八〇・三)

1985年、聖書の聖化を日本各地に宣証しようとの願いを持った有志によって「日本聖化交友会」(JHA)が結成されました。それ以前まで「福音文書刊行会」(EPA)主催で開かれていた聖会を引き継いで、30年が経とうとしています。その間、聖化大会は全国10か所に広がり、更に2008年には、EPAと一つになり、「日本聖化協力会」として、新たな前進を始めています。さて、2015年10月12日(祝日・月曜日)、青山学院大学を会場に、JHA発足以来30年の歩みを感謝と共に振り返り、聖化運動を更に深く広く進めることを目指して「JHA 30周年記念大会」が開かれることになりました。第一回大会の講師でもあられたジョン・オズワルト博士(アズベリー神学校客員教授)が主講師です。博士はイザヤ書研究の泰斗で、また、聖化の説教者としても広く用いられている器です。

大会は、記念式典を含む午前の聖会、昼食時の交わり、「聖化のリバイバルを目指して」のパネルディスカッション、そして夕刻の聖会(午後7

時終了)というプログラムで行われます。

主にある全国の皆様、ぜひ大会への出席をご計画ください。遠路からの参加は、時間的・経済的にも大変であると思いますが、聖化メッセージに触れ、その恵みを分かち合うまたとない機会です。また、この大会のためにお祈りください。大会の祝福はもちろん、この大会をきっかけに、聖書の聖化の恵みがリバイバル的に広がる大きなうねりが起きるように祈っていただきたいのです。

冒頭に引用しました詩篇八〇篇は、バビロン捕囚で苦しんでいるイスラエルの民の祈りです。彼らは、あるべき場所から離れてしまったという痛切な自覚から回復の祈りを捧げています。そして、それは、記念大会を迎えようとしている私の祈りでもあります。私たちも、「義と聖」(エペソ四・24)という神の創造の原点から遠く離れて、個人も社会も深刻な苦しみと痛みの中にあります。今こそ聖化のリバイバルが必要です。

ジョン・ウエスレーはこう言います。「私たちは、この時代にホーリネスのリバイバルを夢見て祈り求めます。リバイバルは私たちが福音の働きへと向かわせ、真の共同体を作りだします。」と。聖化のリバイバルを夢見て祈りましょう。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 論説：成長から成熟へ…………… p.2-3
- 証し：共に聖潔を求める喜び…………… p.4-5
- 創立 30 周年記念聖化大会…………… p.6
- R・スミス博士紹介、新刊書紹介…………… p.7
- 今年の聖化大会日程、編集後記…………… p.8

論説

成長から成熟へ

80年の生涯を振り返って

日本ホーリネス教団 隠退牧師 錦織 博義

戦後69年、来年で70年。教会はがむしゃらに伝道してきた。私たちの教団は「福音十字軍」の旗の許に、日本の未伝地に伝道してきた。しかし、今やそれが裏目に出て（？）急速に過疎化と高齢化が進み、その結果一つの教会だけでは牧師を支えられなくなり、閉鎖までいかないとしても、兼牧が増えている。それでも「未伝地伝道」が叫ばれている。

*

そんな危機に、戦後すぐ着目したのが「葛田二雄」であった。東京丸ノ内のご真ん中で、毎月1回日曜日の午後宮々と聖別会を開いていた。それが『聖潔の生涯』『喜びの盈満』『エプワースの流れ』となつて長く読まれている。戦後思いがけない「キリスト教ブーム」が起り、「こんな所にも」というような所でも人々は集まってきた。会堂はなくても人々は集まってきた。心の荒廃もあったであろうが、破竹の勢いで教会は前進成長していった。しかし葛田二雄師は、教会の成長も大切だが、「成熟」こそが大切であることを見抜いていたのだろうか。一つの教会で「聖別会」を開き続けてきた。

葛田師が、牧師伝道者のために、こんこんと語った『岩から出る蜜』（デボーションの秘訣）、『朝ごとに主を待ち望む——伝道者と密室祈禱——』を教団の教師修養会で使わせていただいた。著者はその中で、まず「なぜ信仰者は密室の時を持たねばならないのか——その理由」を問うている。そこで考えられるのは、その反対に「密室を守らないままでは危険性」が多いからであろう。私たちは「安易な方」にゆきやすい。水は放っておけば低い方に流れる。それは伝道者でも同じであろう。次に「いかにして密室を守るのか——その方法」。それを具体的に教えなければ難しいということであろう。最後に「密室を継続的に守ることの結果」について述べている。彼の書籍には伝道を鼓舞するようなものはあまり見当たらない。しかし、教団としての戦略であろうが、県庁所在地に開拓伝道したり、いち早く海外宣教に着手することも忘れなかった。

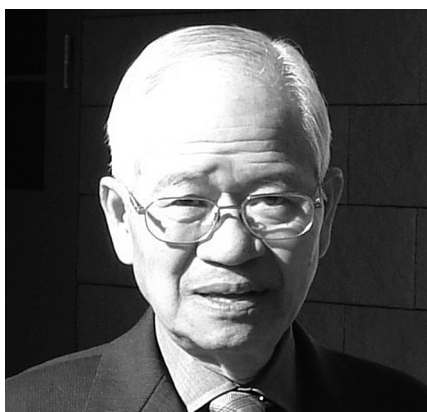
*

また、バックストンも松江を中心に周辺の町々村々にわらじ履きで開拓伝道し、米子、広瀬（今は松江市）、境

（現米子市）、更には上道（岡山市）らに求道者ができるようになった。彼はそれらの人々に、きちんとした生活を説いた。導いただけでは終らなかつた。「成熟」させることに心を砕いた。

バックストンは「あなたは早く起きますか？ 6時過ぎてまだ床にいる者であつてはなりません。私たちは、他人に会つたり、仕事に就く前に、祈りと聖書を読むために、少なくとも1時間は静思の時を持つべきです。また、午前中に良い3時間勉強するはずで、読書にはノートを取りなさい。夜は、翌日の働きのために早く休息すべきです。更に金銭をどう使うかということによって、その人の心の状態がはつきり外に現れます」（都田恒太郎著「バックストンとその弟子たち」より）と言っている。

バックストンはある時、中国からハドソン・テラーを招いて修養会を開いた。その結果を見て、改めてこの種の「修養会」が日本のキリスト教会に必要であることを痛感した。そこでまず30人ばかりの伝道者に聖めを説いた。それが「赤山講和」である。彼は伝道者が「成熟する」ことを常に願っていた。



今年、牧師を隠退された錦織博義先生は、長年にわたって日本聖化交友会（協力会）で良きご奉仕をくださいました。とりわけ福音文書刊行会では、書籍発行のために重責を担ってくださいました。

2014年3月3日のJHA全国評議員会の折りに、80年のご生涯を振り返って、ご自身が体験された聖化の恵みをお証しくださいました。その場でお聞きした私たちは、先生のご講演に深い感動を覚えました。JHAが追求すべきポイントを的確に語ってくださったからです。成長に目を奪われ、成熟を疎かにしてはいないだろうか。今回は、そのご講演のエッセンスを「論説」として書いていただきました。

それにしても、私たちはあまりにも忙しすぎはしないか？「忙」とは「心」を「亡ぼす」書く。心が亡ぼされたのでは元も子もない。ゆっくり、じっくり主との時をどの位持っているだろうか？ 私たちは「夜型」になっではないだろうか？ 朝6時になっても床に就いているようでは、先が見えていのように思われるがどうだろうか。私たちは飢え渴いて「聖会（修養会）」に出席しているであろうか。この「飢え渴き」こそ今の日本に必要とされているのではなからうか。聖歌に「起こし給え え耐えぬまで 激しく切なる飢え渴きを」というのがあるが、それほどの飢え渴きがあるだろうか。

昨年8月下旬、香登修養会に招かれて行ってきた。月曜日から木曜日まで朝・昼・晩・早天も入れて1日4回の集会が持たれた。じっくりみことばに耳を傾けることができた。それは私にとって大きな収穫であった。

そんな時、たまたま天野祐吉著「成長から成熟へ——さようなら経済大国——」の新聞広告を見て心惹かれるものを感じ、早速、図書館や本屋に

行ったが手に入らなかった。一か月あまりして手にすることができ、一気に読んだ。その中にこんなエピソードが載っていた。「しばらく前、作家の石田千さんと対談する機会がありました。この人は、知る人ぞ知る、たいへんな踏切マニアです。踏切で『待つ』ことが好きだというんですから、この人は変わっているとふつうはだれもが思っ

てしまいます。せっかちのぼくなんか、開かずの踏切で有名な代々木の踏切で待たされていると、人生に絶望して電車に飛び込んでしまおうかと思うくらいです。が、石田さんは違う。待っている間に、ゆっくりまわりを見渡したりする。で、遮断機の下のアスファルトの割れ目から小さな花が顔をだしているのに気づいてホッとしたりする……『踏切大好き』という本まで出している。」

この度隠退することになり、引越しをする。そこで問題になったのは捨てる物と持って行く物とも仕分けである——段ボール一杯のハンカチと手拭き——こんなに必要なのだろうか？ 一日に一枚あれば足りる、翌日のとで

二枚あれば「事足りるのではないか？」と考えさせられた。私たちには本当に必要な物はそんなに多くはないのになからうか。

詩篇の記者は「わが魂はもだしてただ神を待つ」と何回も言っている。「ただ」あるいは「のみ」という言葉を六二篇に6回も用いている。彼らの「頼みとするものは、他の何物でもなく、ただ神のみ」である。（本当に私たちはそうなのだろうか？）と反省したりもする。それだけの信頼を神に寄せているであろうか？

説教の準備にどの位の時間をかけているだろうか？ それよりも多くの時間を、他の事にかけているのではなからうか？ いや、自分の魂を整えるために、どの位の時間を用いているだろうか。

この聖化交友会においては、時には極端に言えば、人数は気にせずに、じっくり「聖化」について学び、自ら神の前に整えられる時もあったいいのではないか！

山形県で始まった小さな聖化交友会も今年18回を迎えました。私にとって山形聖化交友会は、主が与えて下さった最高の恵みであり、共に聖潔を求める喜びの場です。

●共に生きる聖潔の恵み（山形聖化交友会の恵み）

去年までは、山形県南部の基督兄弟団米沢教会と山形県中部のCOG大江町教会を会場に行われてきましたが、今年初めて日本海側にあるCOG酒田教会の新会堂で行われました。米沢から酒田までは、山形の南から北の端で車で3時間以上かかります。どれだけの方々が集まれるだろうかと心配しましたが、これまで以上の160名が聖潔の恵みを求めて集い御名を崇めました。

新会堂が与えられた酒田教会の方々には喜びに満たされて、その暖かいもてなしにキリストの愛を感じました。また、若者の賛美チームやゴスペルフラなど賛美に溢れた集会でした。子ども聖会も行われ、祝福に与りました。講師は、第2回山形聖化大会でも御奉仕くださった村上宣道先生、聖会Ⅰでは、ピリピ一章から「わたしにとって生きることはキリスト」と聖霊に満たされる人生の素晴らしさ、聖会Ⅱでは、ヨハネ七章、エゼキエル四七章から「生ける水が心の奥から流れ出す」と聖霊に満たされて証し人として遣わされて行く祝福が語られました。聖会の招きに応えて大勢の人々が立ち上がり、献身者が与えられたことは何よりも感謝でした。

山形聖化大会1回目から18回目の聖化大会で講師が語られた一つひとつのそばを通して素晴らしい聖潔の恵みをいただけてきました。それだけでなく、教団教派を超えて聖潔を求める先生方との交わりは、私にとって

きよめの証し

共に聖潔を求める喜び



ウェスレアン・ホーリネス教団 山形南部教会 牧師

岡 摂也

大きな宝です。聖化大会の準備のために共に集まり、祈り合い、食事をしながら交わりをするそのただ中に主が共におられます。そして、教団を超えて、共に生きる聖潔の恵みと聖潔の恵みの豊かさを教えられてきました。

●雪よりも白く（私の救い）

私は北九州の小倉の出身です。クリスチャンホームに生まれ、両親に連れられて、日本基督教団・ホーリネスの群・北九州復興教会に幼い頃から通いました。教会学校では、役員会で問題になるほど教師泣かせのいたずらっ子でしたが、そんな私を受け入れ、愛し育ててくださった教会学校の教師を通してキリストの愛を知ったのです。そして、1970年3月29日、十二歳の時に受洗の恵みに与りました。しかし、キリストの十字架の救いの確信が与えられたのは高校時代でした。

高校時代は山形県西置賜郡小国町にある、内村鑑三の弟子である鈴木弼美が創立した基督教独立学園高等学校で学びました。校則を破ったことで自分の罪を深く知らされました。過去の様々な罪、現在の自分の心の中にある憎しみ、妬み、偽りの心。このまま生きていくとまた罪を犯してしまう。そんな自分の将来に希望を置くことができなくなってしまったのです。私の心の中は真っ暗で、自分ではどうすることもできず、自分こそがどうしようもない罪人だということを知らされました。しかし、主はそんな罪人の私をもお見捨てにはならず、聖書のことばをもって語りかけてくださいました。

「ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください。わたしが清くなるように。わたしを洗ってください。雪よりも

白くなるように。」(詩編五一・9)

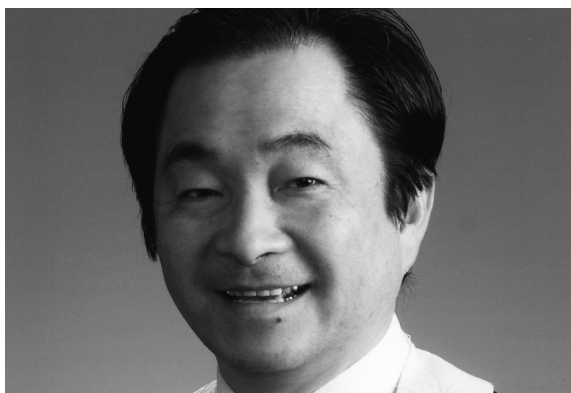
小国町は豪雪地帯ですが、新雪が降った次の日に晴れると雪の結晶がキラキラと輝いて美しいのです。その「雪よりも白く」心を清めてくださるというのです。その時、イエス・キリストの十字架が迫り、心から罪を悔い改め、救い主を信じることができました。そしてこの経験は、わたしの心を「雪よりも白く」してくださる聖潔の恵みを知る一歩でした。

●キリストがわたしの内に生きておられる(私の聖潔)

私の聖潔を問われたのは、東京聖書学校時代でした。聖書の光に照らされれば照らされるほど、自分の醜さや弱さを知らされるようになりました。そして、私は献身をしていると言いながら、自己中心のクリスチャンだと示されたのです。

このままでは、私は牧師になることはできない、心から聖めを求め、聖会の招きがある度に恵みの座に出て祈りました。すると、その時は恵まれて聖められたような気がするのですが、いつもの生活に戻ると、前と変わっていない自己中心な自分であることに失望してしまいました。そして、そんなことを何度も繰り返しているうちに、私のような者は、聖められないのだとあきらめてしまふような不信仰な者でした。

1984年の7月の関東夏期聖会のことです。私は、この日は、恵みの座に出ないと決めていたのです。ところが、聖会が終わった後で招きがあったとき、聖霊が押し出して下さるように恵みの座に出たのです。そして、その場で、今までの不信仰を悔い改め、「私の全てを明



け渡します。聖霊に満たしてください。」と祈りました。その時に「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」(ガラテヤ二・19、20)と主が語りかけて下さったのです。

その時、カウンセリングの先生から、自分の感情や状態ではなく、イエス・キリストの十字架と聖書のみことばを信じて信仰の一步を歩み出すことを教えられました。感情や状態は変わりますが、みことばは決して変わることはないからです。このみことばを信じて、罪を悔い改め、すべてを明け渡して、心の王座にキリストをお迎えしました。あの時に聖霊に満たされ、何とも言えない平安に満たされました。

聖会から帰ってから、何度も失敗をし「お前は、本当に聖められたのか」とサタンのささやきが聞こえてきました。しかしその度に「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」とのみことばによって聖潔の信仰に立ち続けることができました。

私は、伝道者になって29年目になります。伝道牧会の中で、聖潔を問われることが何度もありました。そして、何よりも大きな戦いは、自我との戦いでした。もし、あのとき聖潔の信仰に立つことができなかったら、また、聖化交友会をはじめ様々な聖会、そして多くの聖徒の祈りと励ましがなかったら、今まで伝道者を続けることができなかったと思います。主を心から愛し、いつでもどこでも心と生活をもってお従いしたいと願っています。

直次郎 カオス

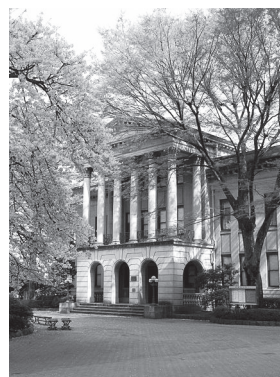


©富無尽蔵

日本聖化協力会

創立30周年記念全国聖化大会 2015年10月12日

記念式典と記念出版



青山学院大学キャンパス

日本聖化交友会が結成されてから、2015年には30周年を迎えます。これを記念して創立30周年の全国聖化大会を開催します。日程は10月12日(月・祝日)です。会場は東京渋谷にある青山学院大学キャンパスです。

講師には、第一回聖化大会のメッセージであったジョン・N・オズワルト博士をお迎えします。博士はアズベリー神学校、トリニティ神学校、ウェスレアン・ビブリカル神学校などで旧約聖書を教え、アズベリー神学校の学長を務められた器です。著書としては日本聖化協力会出版委員会から『聖き』を生きる人々』が出版されています。

記念聖化大会は、30周年の記念式典、聖会Ⅰ、Ⅱ、さらにパネル・ディスカッションなど、多彩なプログラムを予定しています。

2014年新刊出版予定のご案内

聖書に根ざしたきよめを追求する

『聖化の説教 旧約編Ⅱ』

*

『カニングム博士 聖会・講演集』

飯塚弘道・飯塚俊雄訳

好評を博した『ホーリネス——牧師15人のメッセージ』に続いて、出版委員会ではJ・H・A創立30周年記念出版の第一弾として、昨春秋に、21のホーリネス説教を載せた『聖化の説教 旧約編Ⅰ』を出版しました。

第一巻は、旧約編Ⅰとして創世記からエステル記までをカバーしています。聖書に溢れる聖化の恵みが21の説教に現れています。ぜひ教会員の皆

さまにも読んでいただきたいと願っています。

今後のことですが、今年の秋には『聖化の説教 旧約編Ⅱ』を出します。ヨブ記からマラキ書までをカバーすることになります。すでに執筆のお願いをしています。創立30周年の年2015年には『聖化の説教 新約編』を出す予定です。

全3巻の出版まで少し時間がかかりますが、ご期待ください。

*

2011年の聖化大会に講師としてお迎えしたフロイド・カニングム博士の聖会説教・講演集を現在準備中です。先生は、学的なレベルはもちろんのこと、説教者としても穏やかで静かな口調ながら、内に秘められた熱い思いが伝わってくるメッセージャーです。



ロナルド・E・スミス博士プロフィール

Dr. Ronald E. Smith Ph.D.

2014 年 聖化大会に講師としてお迎えする



ロナルド・E・スミス博士は、1999年 第14回聖化大会に講師としてお迎えいたしました。恵みに溢れて、聖化のメッセージを語ってくださった先生のお姿が、皆さまの記憶にも鮮明に残されていると思います。

スミス博士は、米国オハイオ州に生まれ、青年期をニュージャージー州で過ごし、アズベリー大学、アズベリー神学大学院 (M.Div.)、プリントン神学大学院 (M.Th.)、ドルー大学院 (Ph.D.) で学ばれ、牧師としても優れた実績を残し、その秀でた説教と牧会のゆえに著しい教会成長を見えています。

1993年にはフランシス・アズベリー協会の創設に関わり、1995年には実行委員長に就任されました。1998年に、43歳の若さで、ウェスレー・ビブリカル・セミナリーの学長に就任いたしました。

デニス・キンロー博士によれば「米国においてウェスレアン・メッセージを明確に代弁し、力強く説教する器」と評され、ハロルド・スパン博士によれば「広く知られた教会の指導者（特にホーリネス運動において）、ウェスレアンの神学者、際立った学者、エバンゼリスト」と評される器です。

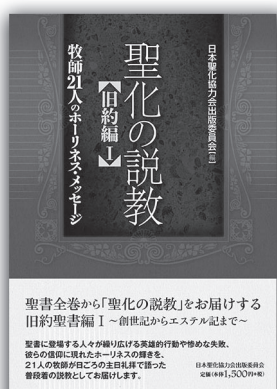
スミス博士は、ドーリーナ夫人との間にすでに成人になられた2人のお子さんがおられます。

新刊書紹介

JHA 創立 30 周年記念出版

聖化の説教 旧約編 I

日本聖化協力会の先生方による説教集
創世記からエステル記までをカバー



定価：本体 1500 円＋税

第一巻は、創世記からエステル記までをカバーしています。担当の先生方には、ご自分の教会の礼拝で説教するような内容で執筆をお願いしました。ですから、それぞれの説教は特別な聖会で語られるものではなく、牧会的な配慮に満ちた普遍的な説教になっています。湧き出る清らかな泉のように、聖書のどこを開いても聞こえてくる聖化のメッセージを、存分に汲み出していただいています。

説教とはきわめて興味深いものであると共に、恵まれるものであると改めて痛感いたしました。お読みになると、掲載された説教の聖書講解に触発されて、幾つもの新しい霊想が湧いてくるのをお感じになるこ

とでしょう。また、読み慣れた聖書テキストが取り上げられ用いられているのですが、その視点の新鮮さと、メッセージの組み立てに反映する豊かな個性を感じられることでしょう。（まえがきから）

2014 年に開催される聖化大会

	大会名	期日	講師	会場
札幌	第 7 回北海道聖化大会	5/20-21	藤本 満 師	北海道クリスチャンセンター
宮城	第 26 回仙台聖化大会	9/15	大嶋博道師	日基 仙台青葉荘教会
山形	第 19 回山形聖化大会	9/23	郷家一二三師	COG 大江町教会
栃木	第 18 回栃木聖化大会	5/25	郷家一二三師	ホーリネス 栃木教会
関東	第 10 回春の青年大会	5/25	川口竜太郎師	IGM 中目黒教会
	第 29 回関東聖化大会	10/19-21	R・E・スミス師	浅草橋教会/OCCチャペル
遠州	遠州聖化大会	2/16	吉田 眞師	IGM 浜松教会
東海	第 21 回東海聖会	6/28-29	川津良知師	名古屋一麦教会
東海	第 27 回東海聖化大会	10/23	R・E・スミス師	IGM 名古屋教会
大阪	第 66 回Wに学ぶ会	5/20	竿代照夫師・皓子師	救世軍セントラルホール
	第 67 回Wに学ぶ会	10/24	R・E・スミス師	ナザレン大阪桃谷教会
岡山	第 7 回備前聖化大会	10/26	R・E・スミス師	日本イエス 香登教会
四国	第 7 回四国聖化大会	5/25	高地博夫師	日本伝道隊 白鳥教会
九州	第 25 回九州聖化大会	10/28	R・E・スミス師	兄弟団 福岡教会

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページをご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。<http://jha.christ.gr.jp/>

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化大会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

続々と、電子書籍化を進めます！

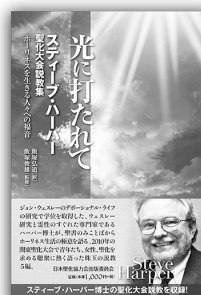
電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。Amazon Kindle ストアで検索してください。

光に打たれて

スティーブ・ハーパー講演

飯塚弘道訳・飯塚俊雄監修

一、〇〇〇円＋税



ホーリネスを聖書の根幹として捉え、神の啓示として語り、勝利の力として訴え、恵みの挑戦として迫る。語りは熱く、確信に満ち、魅力的かつ愛にあふれるメッセージ。

大切なのは成熟ではと、強烈なパンチを繰り出していただきました。証しを書いてくださった岡拱也先生に感謝します。真実な信仰の歩みと、地域の温かい交わりを感じてうれしくなりました。

創立 30 周年に向けて聖化説教集の出版も正念場を迎えます。ぜひお祈りと共に、教会の皆さまに購読をお勧めください。(矢木良雄)

編集後記

聖化 55 号をお届けします。巻頭言は明年に迫った 30 周年に向けて、会長の竿代照夫先生に書いていただきました。大きな期待をもって準備を進めていきたいと思えます。論説は錦織博義先生です。私たちはいつもさらに成長するようにと急がされて生きています。そうした風潮の中で

聖化 No.55 2014 年 4 月 28 日発行

